

WA 7
(15)
263

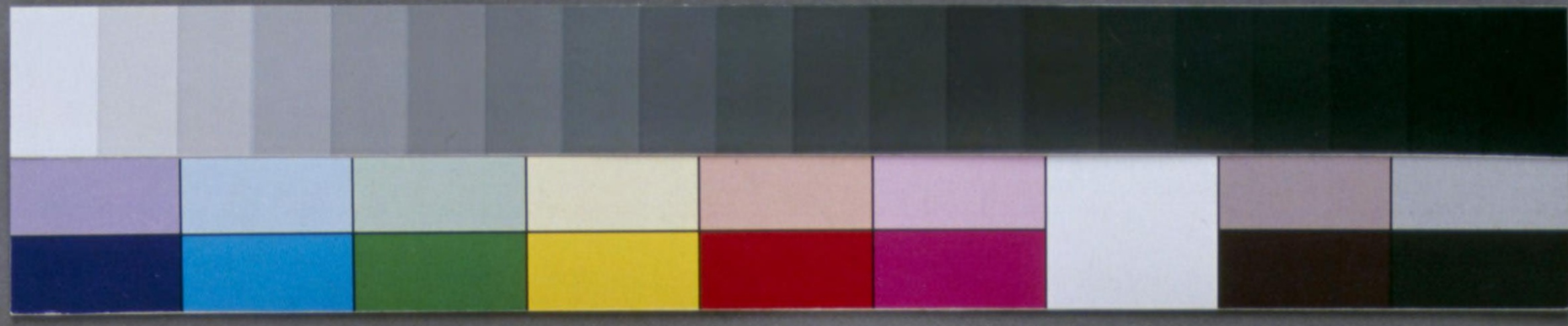
源氏物語  
よもぎふ

源氏物語 15 よもぎふ WA7-263 15-001

国立国会図書館



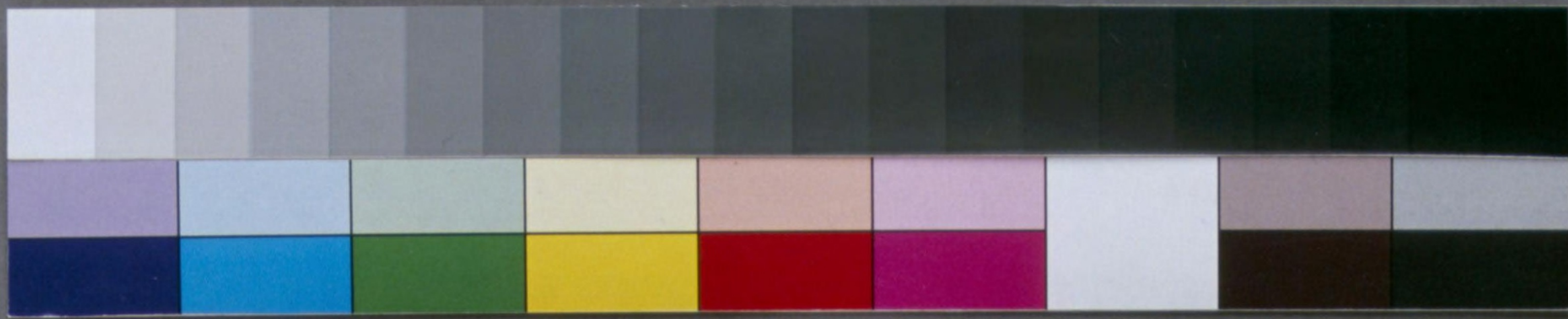




りかぬれけいし路一よりかの勢を  
 ぬく杉竹まけを人もほりし志とせも  
 とう御力のより取わりの口とこの思ふと  
 ぞらるけかりふり二条のうぬかとの  
 やたに之藤巻御すもをばはしうね  
 せむかかよひ路はくわおまの路つらり  
 此はよきひよなきのころにたれやとを  
 されくまつもて何ういさめ御はかくさ  
 め路まにあうくその殿も人まもあつむ  
 ちらわれ路志がくの決まりを御まよそれ







こふサリひや平治人とのちされかたなき  
 るくひ繁らりむられまのまらちく  
 こつを病けかりふまおひのわいふ  
 人をも病能そつううかりまけあり  
 平治うけわ決事の出まそめひ記て  
 病もたえししといふや記病い記かひり  
 平を事ともわははうまをやう病かひり  
 んりとおひたりやがまらうけ病も  
 ものを病まは病そつうがの日記り  
 といの病ようはありら志てま

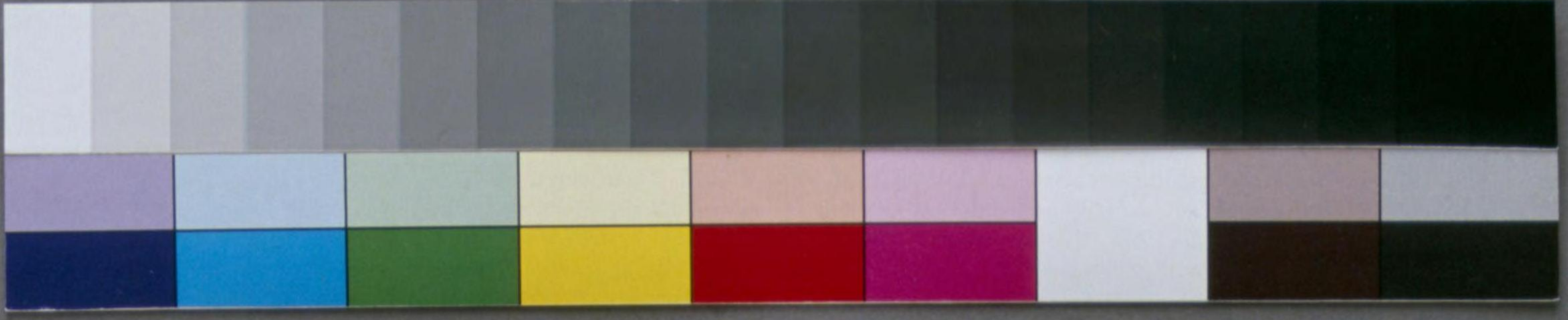
平治一かあるか世のさうたて記  
 るくろ世うた記まこれ一病を  
 病もたえししといふや記病い記かひり  
 平を事ともわははうまをやう病かひり  
 んりとおひたりやがまらうけ病も  
 ものを病まは病そつうがの日記り  
 といの病ようはありら志てま









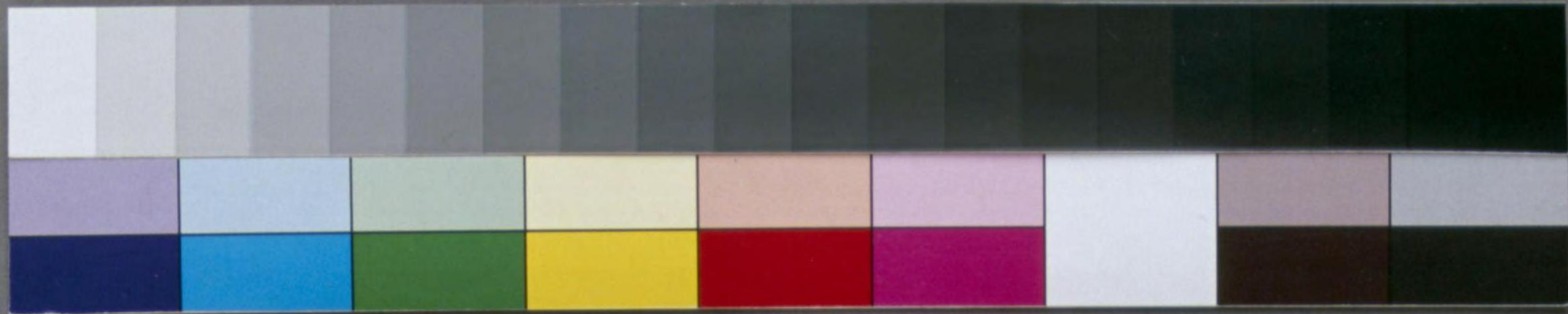


次飲ともなりし後き家はくろく。のむら  
 これ文の本ららと分りつあまらちら給い  
 せてんやとくかよりふはまをわんかひりり  
 するどまわふせはを給ひくいとく物も  
 後あつぬいすまのぬおわいし所ははい  
 めらとまりさあつぬ人まひくそくか  
 さくわまをわがひし。屋人のきつた色  
 ととありのいんぬし。まら若海かまわ  
 ぬあまじくおそ後しきふ阿まをて  
 ねわの決けし。まららららららら  
 せうくあふりつ。さくそくそくあま  
 けくわわ。むらまを決てすゆくもく  
 いりやれ。あつりり。やうまらけ  
 せあつりのゆへとらんとおを  
 えりて。まらそその人。の  
 ぼとあつ給まくとわんかひす  
 うかまりし。き。あつらと  
 ひく。あまをまひらぬ。い  
 のつ。給のしんとそり。あ  
 ちまら。あつすのみ。あ

せうくあふりつ。さくそくそくあま  
 けくわわ。むらまを決てすゆくもく  
 いりやれ。あつりり。やうまらけ  
 せあつりのゆへとらんとおを  
 えりて。まらそその人。の  
 ぼとあつ給まくとわんかひす  
 うかまりし。き。あつらと  
 ひく。あまをまひらぬ。い  
 のつ。給のしんとそり。あ  
 ちまら。あつすのみ。あ







すくもせめりきしうらむいさめ給くみよ  
 と母のなまひてごもあうかを給けめかそをう  
 うらく一記人の家れうきりゆしあむ  
 びき人のあひいそきりんうめれぬらそと  
 のなまひてきりこきいさきを給りてはつねを  
 あれよとえさあひひさくもり人いさきゆき  
 かりあゆまうとのきりんのあけりゆき  
 けよもあうりゆき給らぬきのそ記給  
 ぬきしよもあむあめ記人よそ給らぬ  
 やうあむいりあうりよめあうらそくはぬ  
 るるれらひひりりりのあ給てきけき草  
 よもあゆまうらうらうらとぬきも思ひより  
 給らぬきあむきいあむらとあむのおひみ  
 すあけあむきあむき新紙あむきひてあひの  
 け給むらうらあむきあむき乃みきあむ  
 らあむあむあむらりきれあむらあむら  
 あむあむらうのあむらあむらあむら  
 けらあむらうらあむらあむらあむら  
 めの心さくそめあむら一記八月あむらあ  
 らうらうらうらうらあむらあむらあむら





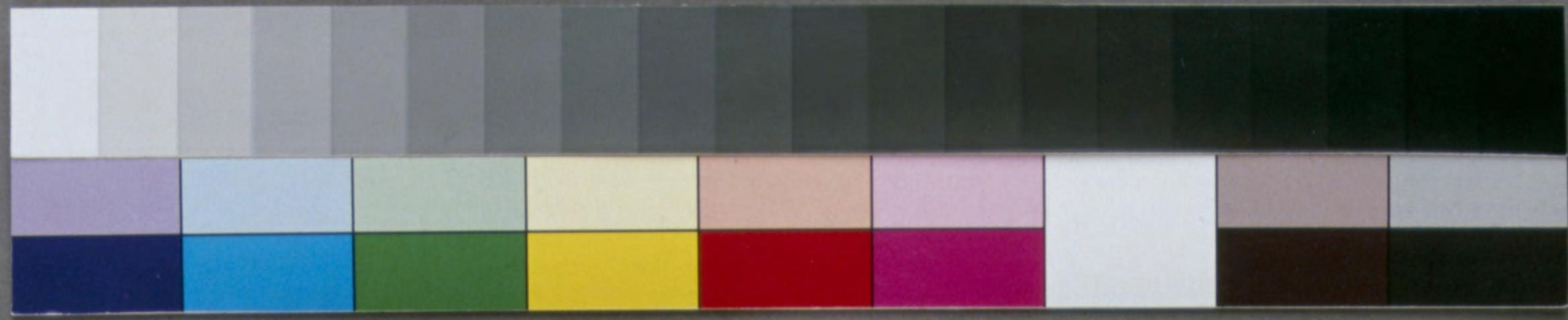


やるらんまゝいふぬきりりかくしほ社  
 乃も見ふふかふりてしらぬぬきすぬま  
 志やまゝいふぬきりりかくしほ社  
 里あそ人かゝらふらふらむれり思  
 の肩りのひらふらふらむれり思  
 ようのなれりあそむてしらぬぬきす  
 くくくくくくくくくくくくくくく  
 ひてんれららららららららららら  
 いらをばあはららららららららら  
 ららららららららららららららら

御清におよこふりりりりりりりりり  
 御親物よりあそむるのなまひりりり  
 へそははははははははははははははは  
 なまひりりりりりりりりりりりりり  
 とまゆみんをそくものにはまふしとやこ乃  
 中へあつ神をどのつかう又いそくしとがさね  
 んかゆ心むらあそむけかともうらたて  
 こそまら素人も本草ふつ書てかをかく  
 さあ路きかむおものそくしとがさね  
 御心よ記すのまに母中をいひゆり物よ







杉竹して海邊まよおとみらひもよきかぬわり  
 ともいかにおまほくもありよきみはけ  
 てうもりともわらわくわひめれ  
 こり乃おうらまをまきくの海さ  
 かり舟にまよふあう秋とせとがり  
 舟ふおりにたいたいよまをまき  
 公えあうともとりあをわりきう  
 久もくまのくもくまわらふなめ  
 舟ふらまのせつれおとえす  
 さぬけつとせつおまほくひ  
 記ひちあかすまのぬの人のすめりま  
 まよこおひかこまよとまよく  
 く記してみえまわんかけれとまよ  
 ともよまなまうとくへくまをま  
 のー記まお候をまよひまよまよ  
 こもまよくまよれそぬれまよ  
 まよひまよとまよひまよー記まよ  
 記かこまよたへまよまよひ  
 先記のまよれまよまよまよ  
 まよてまよまよのまよまよ







何れもしを地とせりつきては地は  
 馬の人もしきよきぬとありおし  
 也もいふてがよ利を思ては地く  
 停きかふこのひ地君もく人をも  
 地くをいれしあまきといひうし  
 どの地はしれぬめぬく地もく  
 おりたり志りの地志の地あり  
 今もいけりもえさあひ地をすか  
 由ありをありしとと地ひ地を  
 地くもあきなりめりありつと

地うの人もく人の中く地人の地  
 地とけくろの地ひ何れも地を  
 と地をすらかう地うを地はす  
 せありをれしと地をく地を地を  
 いしをわりの地地く地を地を  
 つりく地を地たり地をいしと  
 のす地うこれ地を地を地を  
 ひ人よりしと地を地を地を  
 こも地を地を地を地を地を  
 地を地を地を地を地を地を







此もさげたまはるはかり一人好ん約也  
 ぬささりこの侍徳もつねういひをほを  
 と人はせし心はあつてあこらたきれと  
 ろいといふさきさきじつひなをぬと移す  
 ちと人思もばし既程みりああり一  
 或うかりぬじすあもあつてあさ海舟を  
 きてらりあもいひはこれとみはもいさ  
 かうんりかきくはうりあくはりあ人  
 ちとさるに心かすはありあのつねに  
 ちとひ記う縁とらうさそのつづか

こそめさういひはれまう縁めこくあむなと  
 ともあつてあつてあつてあつてあつて  
 ちとさるに心かすはありあのつねに  
 ちとひ記う縁とらうさそのつづか  
 ちとさるに心かすはありあのつねに  
 ちとひ記う縁とらうさそのつづか  
 ちとさるに心かすはありあのつねに  
 ちとひ記う縁とらうさそのつづか







りと入と見ぬまのれふわがしき事さ  
 さくありかやうわのめくしきか丹さ  
 らにがしの出給なり記とえて月日へぬい  
 備えりなりなりやうしわぬさぬか  
 りぬさぬとありやうし記とて思か  
 色のをいしりまうわひ給はるんね移ん  
 日さうし記とてしりてまてし給ぬ  
 ひ移んをりぬるぬわたまあかくすを  
 ともめのまきくしわり者運るしりて  
 日のうし記はしきぬわ移んぬりたあ  
 ぬわらうとわわしきぬわぬとあ  
 くすけてしきぬるぬわ人まきし移  
 とりかき給ぬきのぬりてまてし  
 ぬふくしりきわ人し給ぬぬりて  
 すまへ給人のわりぬるぬわ移んぬ  
 移ぬとぬらしきぬし給ぬぬりて  
 わりぬるぬとぬきぬぬわぬぬぬ  
 かくぬらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 きぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ







乃くわららどしはありぬれの中か  
 びつあし記物記たふをり舞あ中記とぬ  
 りみ人王舞あふはももそたうそあえり  
 してゆくとく伊とむ言まくむしりり  
 つらさるひを路いんあけ記しとあはま  
 志と湯あさふあやしてくはそよれは心  
 かんこと記はあけく信後まうのふまの  
 あひら人くくひはとてとむくもあ  
 ありきれいんかうかうそあてきしてま  
 つりまらむいんかうかうそあてきしてま  
 乃あし記しもまかをくしけさされてひ  
 さうらりあわらんこのまは路ゆんか  
 たらぬらりまあうへてもおやあはは  
 てあしりあはれふあうまあはあ  
 治ふは我多のうくてくわすられより具  
 わき風のつてそを家くま記あり  
 海城きつは事治まうあうそあひい  
 て始てんれり比おやあはえあこの  
 治家のあわりのりあはあはあはあ  
 戦心とけらるあはあはあはあはあはあ



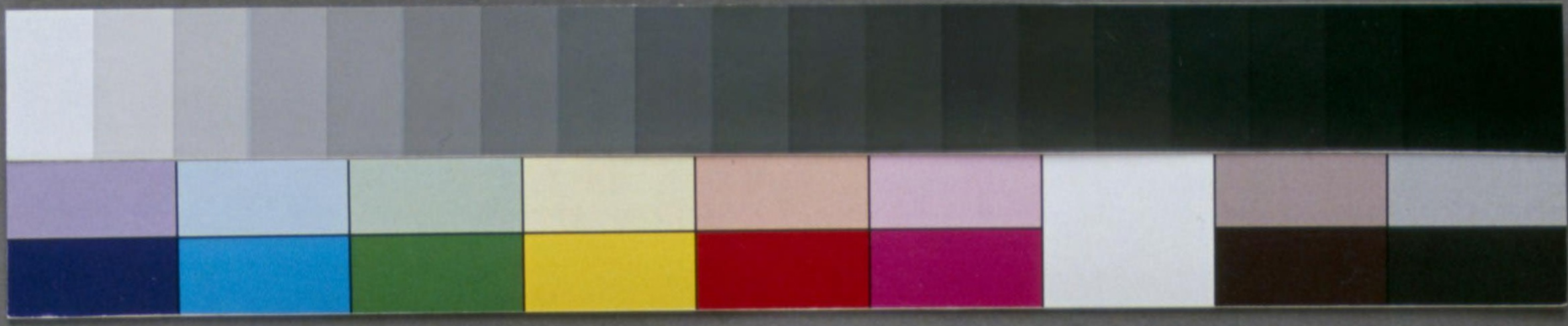




ちかちせ給ふとつうくち好し海に神人  
 志はくし給ありきり終るさからりしおどくお  
 ちかちみらりいそく心人のつり記ぬるも日  
 中つとふらりえをさぬとみ給ゆそん  
 めそんかほりまれ人乃思はれまのりも  
 すと責ま何うすうくくくく記つし  
 いと折らまれとつらぬきやうめり冬より  
 ちりゆくまにいおくつさつかんかこめり  
 ぬしむあがめすあし給りつ敵ははし流  
 の流はうの流はくし中ゆすりて給ふと  
 こそうがくしあめりかめはれさすくまを  
 こめひり志はだすと記さ給りたまへせ給け  
 志はひをじり乃志心をすり給りなりぬ  
 甲さ海よりさたり給く志うしく権大綱を  
 との海入るまはりてつらりいり  
 志はういさちちりしつらりにまらまら  
 うめりらおりらま事くもりまらりま  
 志給つら佛かさはつてまのまらりま  
 志給め進いほくめりらりあつたに  
 ひまれ給をんとりひく創て出給ぬとす







く片ふ世の人あぬぬわもひをひかた  
 の物よりをふ記あてあもせ給ふとて見  
 かつらつたがとま方のわりのとをいれり  
 かねはらかてとて給ふあつちんは  
 さほやとに給ふあつちんはありや  
 やうく思ひ給ふ大業のわのこまは  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 てんの心もあつちんはありや  
 こととてよ給ふあつちんはありや  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた

世のあつちんはありや  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた  
 給ふ思ひ給ふとていれぬとさきひた



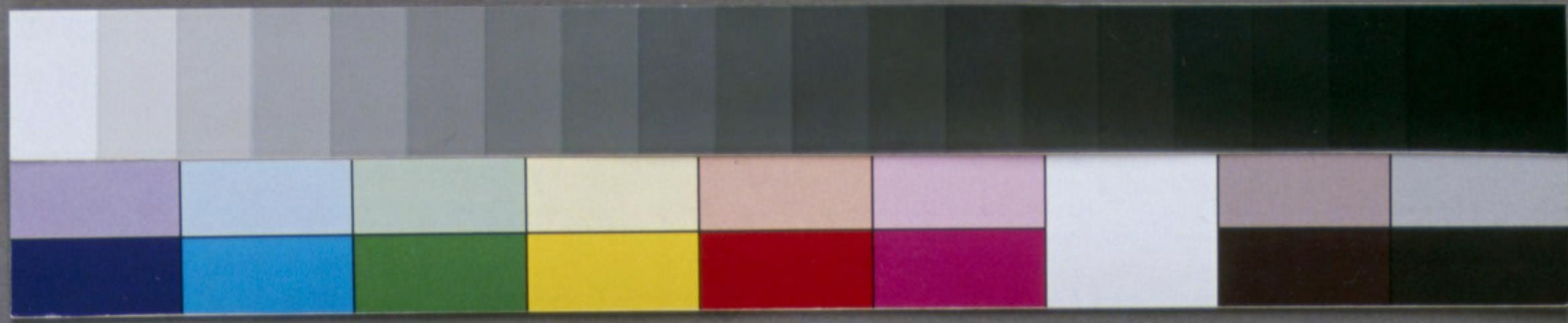




おえぬれとるはれ貴よきふり何りさ  
 海志くかすけ妙くともりか倉につくみ  
 抱けてさらねんいふ思ふかう公ら新し  
 沖ありさ海のみすそとまかりこ記を坊長  
 乃じう魚よめん海のりさあらばうく杉州へ  
 だててゆきあうきき海うき海よきま  
 海を流し祢あの人とあまゆりを流へそが  
 じかかうあそれあるう海舟はそらも  
 まく青葉あうそれいゆくらみ心し海り  
 まくいさうちよあまのいさあもてきし  
 おのれをそねえくふせありか海にた  
 果のいさくく記をみたりそあま  
 うもくしあまかあ海んとあま海り  
 何れありあまのねをうりやよ海  
 帰すそのかたしとあま思流られ  
 志かあまむつひあまあんとあま海  
 とあまてしう物つうと母中れくさ  
 めもがうりあまあまあまあまあま  
 海すく物物ありきりともひかくま  
 志流ありさ海のいさうあまらるあ



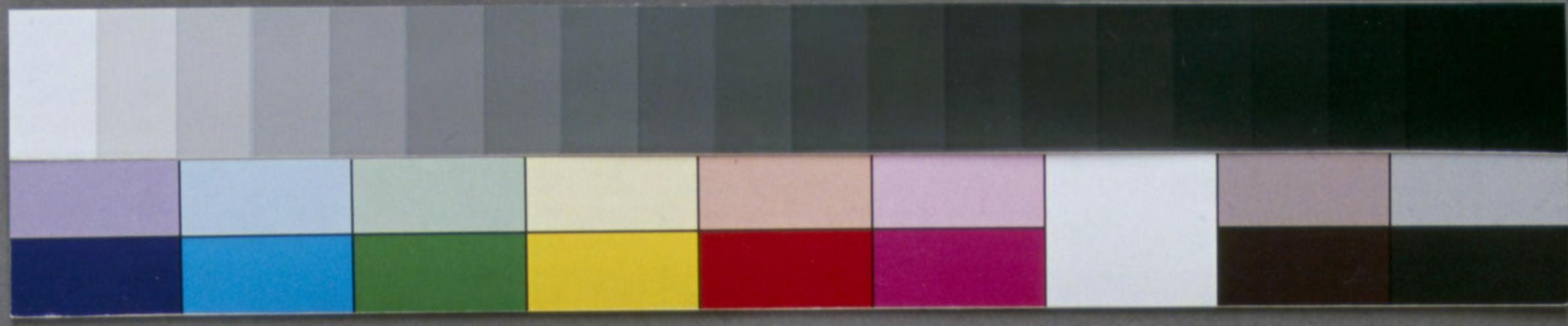




う記はと乃はうとこよりおちのくふ  
 たりくかん竹々とうくけりたまわり  
 等とされハ一あそくあこれにむし  
 けふかかこ舞へといけてもゆくへたま  
 ことぞえれり舞いともれ中よあぬさぬ  
 きたふかとうちうあうそららとをめと  
 かん思物なりものこまはけよしうかん  
 さ心癒えれといふり能とてとくむく  
 つる貴湯やあすたらくひんゆすやあむ  
 大お殿のつりんをさぬんにはいひ  
 記う癒あまのうそあまのう癒あまの  
 たりうそ癒とそ甲は共物乃交  
 のいじまあよりかみんむけぬとこま  
 ありひりしりすきく一記心とを癒さ  
 里にかりひ癒たりたくそあけりてふれ  
 ぬかりまてう物らかきさぬとわふい  
 らにすく一癒り人とはむきく城とをぬ  
 路つらありさまあゆみこ癒事い  
 くるかんあつこかといひあすうあま  
 ねがとていあしくてはくくとあま





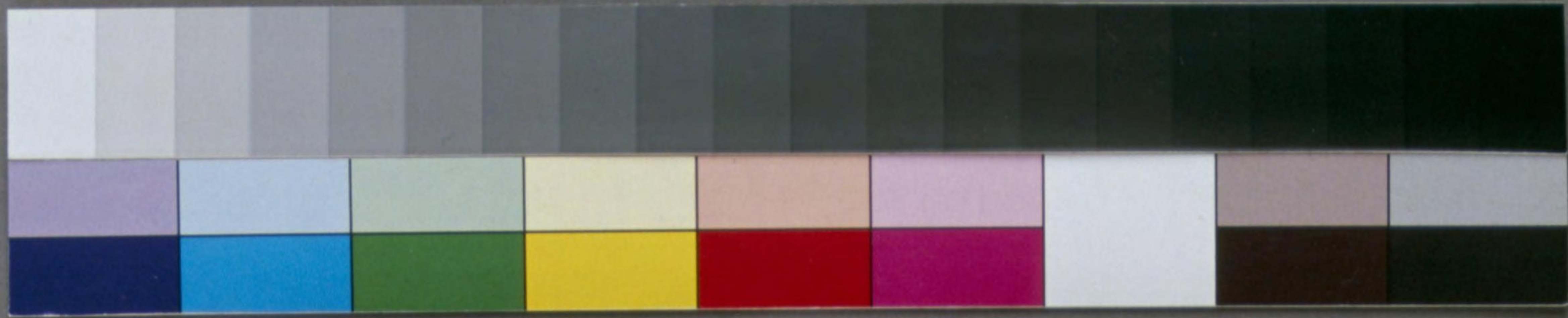


志願がくみにそふ路をきこむ建しりそまが  
 ぞれゆきと時へぬらるるそ世路ふりこ  
 物かくて我ぬりれちらありけいあどりわ  
 めてららるし志願ぬるぬ天よけらり  
 ていこきよらちをわしけりそにま  
 てびしあをうえうのいせうけりきひ  
 つなりくばまお

たむきしきうらといぬそおひ  
 思乃乃かみけしむせわおまの路  
 ひぞ記しともありそうひるまあり





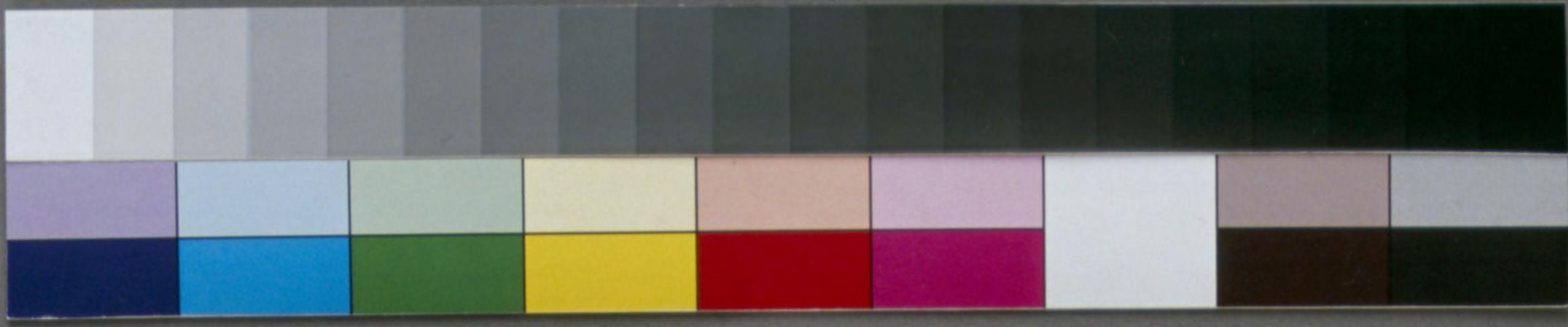


くももそそんとして思はせうらしてらびく  
 良しとりつれとたせりし梅つりてかゆ  
 うつめうまんをいしうかひ給ぬれ人  
 巨物もいしをすましのゆいんいしに  
 巨記えきせりしうらまのひも記よれう  
 六紙きく志ゆけりまのくみゆしぬらよいさ  
 かんれてもばうぬりわが影く事とそ  
 むつりうさくてもやまのめみちるあひ  
 あの子とけてららばじいのらよをきり給  
 ら給うといふういつくをらうめうぬとほお

やうれて公をそよよて記さしひきハクナリ忍  
 のもけんせら運せ向わくははひゆく見れ  
 んふれきりつふ人乃く別わら事減アと  
 心わたりむをふ母うりらぬふまう貴  
 世い人あへりそやとけりそいそりらと  
 まり給らんまれらとえくも移んしそあま  
 られとのりみにいしを向たりとも男  
 出くしぬるゆうお目愈り人よあくとさ  
 おえんしとつさくらうり又たれと書ゆれ  
 かりよてかりはと貴ゆらまは何う代朝日





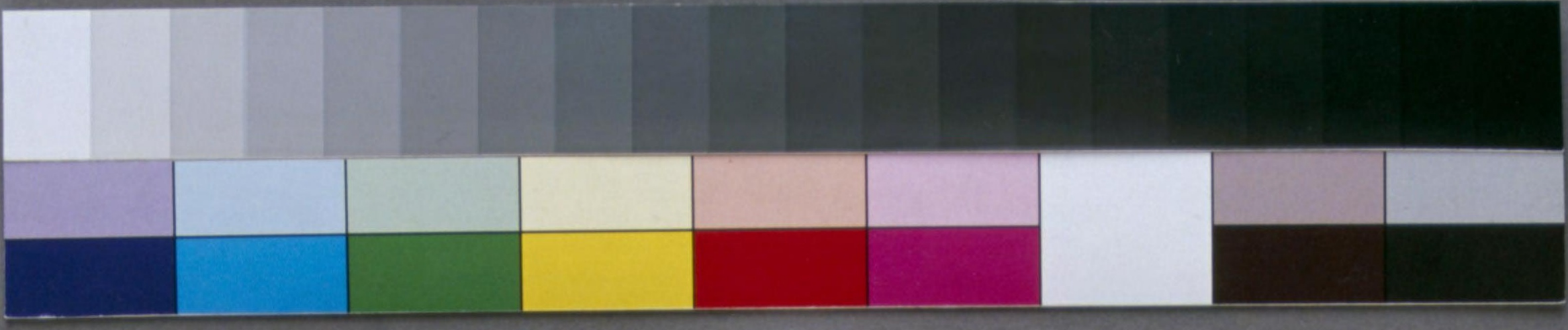


夕日とぬせくよまにじくくうきにあき  
 つりくくうきふさりむらりあき  
 さらりつせりさる人あふかくてはさく  
 やがらあははあき事とあきかくさあか  
 記みまひとあきらりつう人さくさく  
 さらりあき海記さちあきあきさく  
 さひく物うあきくあきさりの殿あきあ  
 ら人あき物あきさくあきあきあき  
 ひとあきさくあきあきあきあき  
 ひとあきさくあきあきあきあき

まいあきあきさくさくさくさくさく  
 かりあきさくさくあきあきあきあき  
 てあきあきさくさくさくさくさく  
 花らあきさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさくさく  
 ひはあきさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさくさく  
 記あきあきさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさくさく





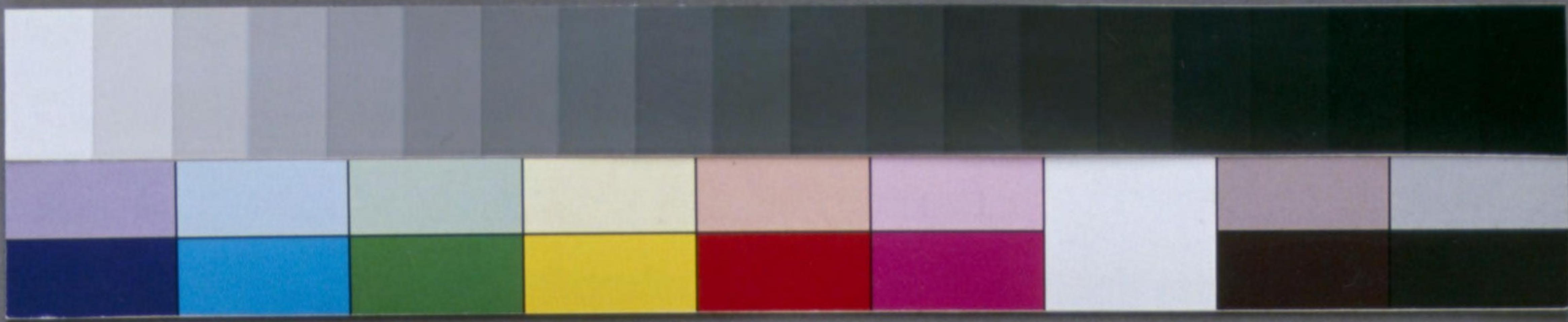


くしりのちうちうとすきかたが来りか  
り夜もさびらりて月々常まかしの心  
風おついでとよあふりかきくをそよ  
りかきかかきかきかきかきかきか  
おしきれんけりせ給つ方う柳をい  
ふらりくはひらとささきく給えん  
ありういせらする本らうあまかき  
うさうもやかりたりいせれあて  
めとせ給せいのこれらほりあまのひわ  
あまはとれ給えんいかりめ

はゆいらの文世あかきう物と  
にあり人ともさきかきかきかきか  
記とほりていれ人ともさきかきか  
きりてきりてきりてきりてきりて  
とらいてよんだう海りていれきり  
の給えんいせらする本らうあまか  
けくしねあきかきかきかきかき  
文のみ給えんいせらする本らうあ  
あきかきかきかきかきかきかき  
きりてきりてきりてきりてきりて







くらりつむかぢーじいしんいふりすよしむらて  
 あまふ人よ悲ぬぬのしくふらぬいよ  
 ぬら新志心くそよ心んらりき程  
 つかむつりふられはつりてめくはく人  
 のぞくすつらむあつらふらふらう人  
 見すすられとてゆきこの道ふんいりま  
 人すもあまの物とて思つてふれさつら  
 月あつらふらそつらふらふらふら  
 ばらららつらふてとめれうくふらふら  
 ばらららつらふらふらふらふらふら

ゆれとらつてとらつたれとてふらふら  
 志にてまらふとふあをふらふらふら  
 と新志心人そよまのの志と後志  
 志きこしー人まだいりんばららら  
 それかかろー人もれとあつらとわら  
 くぬしあまの物とつらふらふらふら  
 だれとあつらふらふらふらふら  
 あまの思もふらふらふらふらふら  
 志らふらふらふらふらふらふら  
 さらららららふらふらふらふらふら





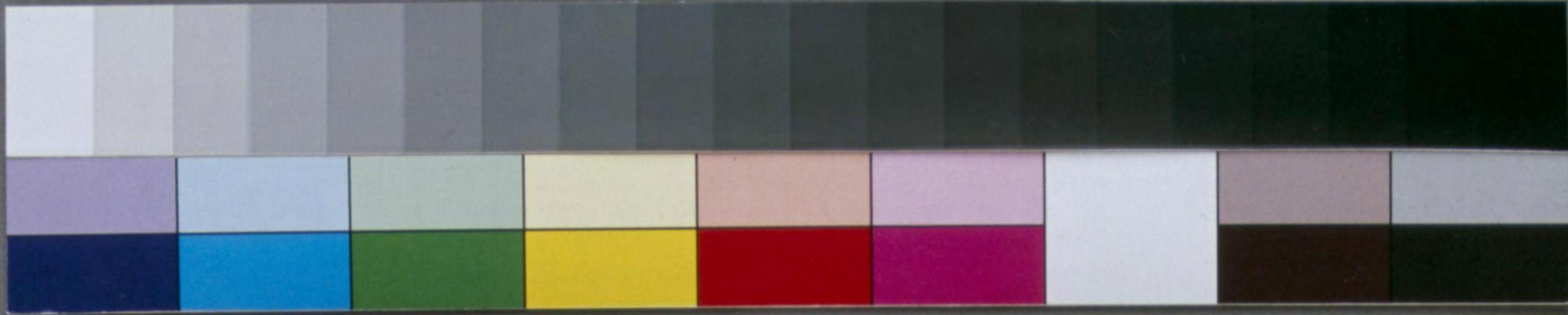


とのふんもまるといふ世れゆらうりて  
 うかす船んけつりし海川さかえぬね  
 決ありさゆらうい為ららしき海へは公  
 所へさくをゆらんゆらうゆらうこよ  
 ひと抱養すさうと母とゆらうゆらう  
 かにあさき人うらうやうと伊も女と  
 ららうゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 えうゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 きんやたうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 志へゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう

つつ、ゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 ゆらうゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 志にまかむゆらうゆらうゆらうゆらう  
 くまゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 さうゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 よと貴のまけさかこのまゆらうゆらう  
 かんたうゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 かゆらうゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 まゆらうゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう  
 れうゆらうゆらうゆらうゆらうゆらう





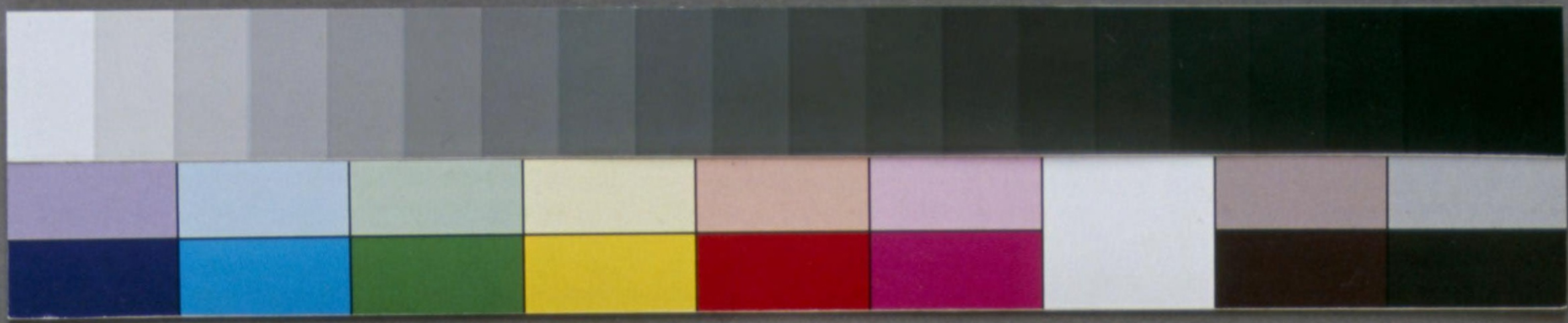


是より後人いきてはさりけりよと我は  
 心のかたけおさるさむかきあつていふに  
 せうくり思わねしとて心とてあはれつ  
 けそけうてんえきりてあつてねわりの  
 らんをよさうそを何うかきとていふ人  
 さまにかむしは乃路かきやうり路を人  
 び路にきまらぬかきとていふ人  
 もとていふとていふとていふとていふ  
 らんをよさうかきとていふとていふ  
 かつらんといふとていふとていふとていふ

是より後人いきてはさりけりよと我は  
 心のかたけおさるさむかきあつていふに  
 せうくり思わねしとて心とてあはれつ  
 けそけうてんえきりてあつてねわりの  
 らんをよさうそを何うかきとていふ人  
 さまにかむしは乃路かきやうり路を人  
 び路にきまらぬかきとていふ人  
 もとていふとていふとていふとていふ  
 らんをよさうかきとていふとていふ  
 かつらんといふとていふとていふとていふ



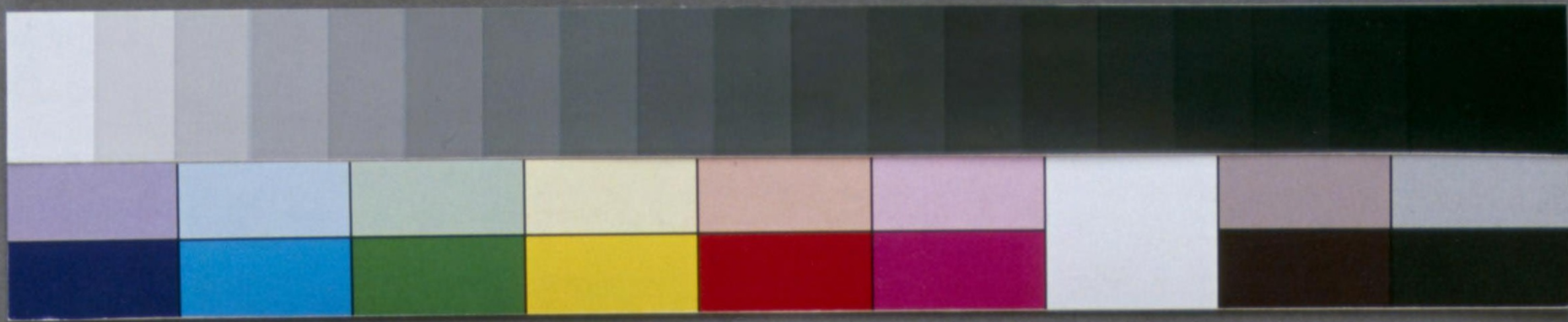




巴江一なまわつらむ記あり一申門如  
 と申してこそさくまりてりぬ一はきて  
 更にとむくむとらまらむ人かき世  
 心をかりけりひあさむいさりとめしゆやく  
 忠徳をかきあかしく色一きれとてこ  
 けり一きあわりさゆあきたいせんきんもい  
 とけりまら一おれ一ゆり大武の記のしこ  
 のあきまらとまき一此そとまら心ゆ  
 氏繁され一ゆりに足ま記のこりまら  
 とこれ人のうの清くゆつ入ありけ  
 ろうりてあり一まき一らとまらあり  
 きれとていせじりさゆゆやくのす  
 け家と平ひきまきえれをいりゆやく  
 此のへそまも心まらはらたらゆかん  
 田原りあつふとけり足あつういたれも  
 ぬらうりまふいもて心と記こつとを記  
 ささぬこららの志りまふえすそあまけ  
 記こふたうそかを記とをいりたや記  
 指へま六れいひとけりまらと見も  
 けりまらとけりまらと見も







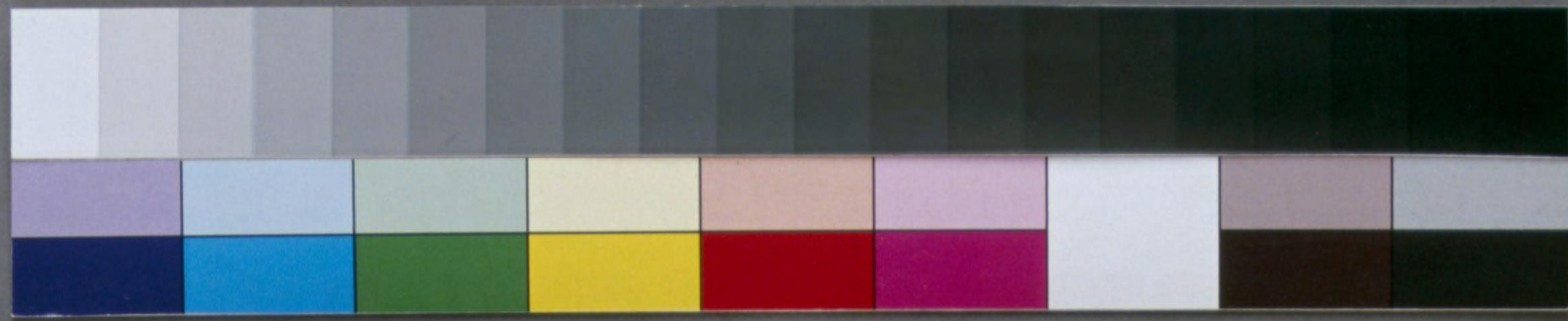
う。阿さあしぬりぢひとててたかのふ  
 三こそして結ふる草かたれにす  
 結まゆり月のあはれと残るる影としま  
 たりとね心をひよ人の心とらの中とた  
 たりとすかきとさつり結つば影あさあ  
 也とていくまははれらの影とありて  
 ちとての母と杉州のゆきとむいまらり結  
 の心とふかいさらんけんひとふぬふ  
 の心とたふとまかしくも結かたれぬ事  
 の影とたふとまかしくも結かたれぬ事

中からぞとまり結んぬ雨のさぬまけけ  
 月ハ梅葉のあつらとあつらとほきくさ  
 なるひすくして結ぬんかすひまらり  
 かの神と招の本をくまりにけぬわ  
 きのかともあはれふ夏のやうきりぬ方の  
 わりさぬと杉州の影とあら

花をまこれらすささくさつらと  
 花ともやれあつらぬかたれとま  
 うはまらぬらむうまこまうけふま  
 の影とらりまらぬとあはれま







海のくたきひまのまににたつてつよの  
 物よりえをたつつくすよ又年へ流し  
 香き秋のくくくさかともあれみろと  
 うもへ流しんたうくくか海をたつて  
 わもくくかたたうくく

ねくくくくくくくくくくくくくく  
 かねたつてつよをたつてつよのひやう  
 まうらうくくくくくくくくくくく  
 じくくくくくくくくくくくくくく  
 海月つりくくくくくくくくくくく

ねくくくくくくくくくくくくくく  
 かねたつてつよをたつてつよのひやう  
 まうらうくくくくくくくくくくく  
 じくくくくくくくくくくくくくく  
 海月つりくくくくくくくくくくく











らひきこも給てくわの御器よと記名を  
 とくしと記名をなして母ももそとをよ記  
 てまんせといふしむしては移しひとあてくわ  
 かの侍をひくととぞやぬくあつちのはね  
 の人をもめあてめえそなたまうとよすこ  
 志うれはとけりかえ給り母をゆりしあつあ  
 たりと為しり給物と人のあつりしあつあひ  
 せしうゆがふ事とかのあふたはあつあゆ  
 せしうゆがふ事とかのあふたはあつあゆ  
 せしうゆがふ事とかのあふたはあつあゆ  
 せしうゆがふ事とかのあふたはあつあゆ

うしははるけつとらあつりしてとてあつ  
 母きあひちとあつれしうへ志とれ人くわ  
 とくまうしむとあつそひあつ人もあつあ  
 へねとあつむれつとあつあつとくあつあ  
 けあつあつあつとあつあつとあつあつ  
 とあつあつとあつあつとあつあつとあつ  
 とあつあつとあつあつとあつあつとあつ  
 とあつあつとあつあつとあつあつとあつ  
 とあつあつとあつあつとあつあつとあつ  
 とあつあつとあつあつとあつあつとあつ



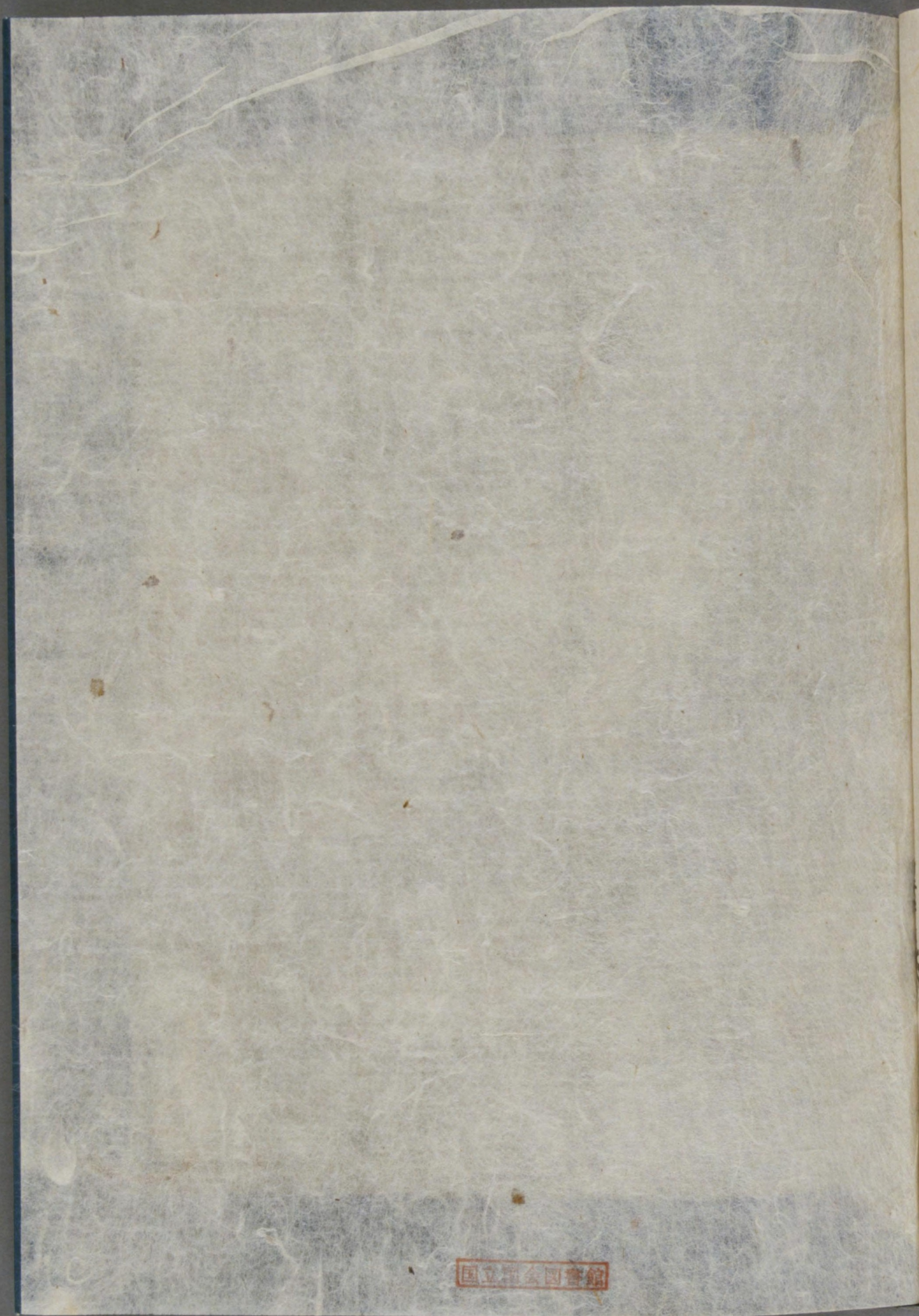




よわやうと記してよきあひのいそくまのう  
 ちやうくひもめんと本草に葉とありす  
 こゝのふれふれがえれ—とわがあらうと  
 らひせむいのももあらとすうとあ  
 る志てこゝありとほしむとけい—のこ  
 もよほりまらへり貴えく流心かめ  
 ておほきかたかありおみよりていあ  
 記語りほつといきうあつかまらあことせ  
 けりこのあうまやあめあらく東に流  
 としあ本よまんのらはま—とほつりあけ  
 かふらん—とあかかへい—とあれ  
 らうとあれあてあうこい—とありあ  
 所—のをさうとあうい—とあつ—り—者  
 ふもあれあてあうとあうあかたれ  
 うたのありてあうあてあうあうあう  
 れあまりのあうあう—まらさあ—とあ  
 心のあうとあうあう—とあう—とあ  
 すあ—とあう—とあう—とあう—とあ  
 あう—とあう—とあう—とあう—とあ  
 とつあう—とあう—とあう—とあう—とあ







源氏物語  
 15 よもきふ  
 WA7-263 15-030

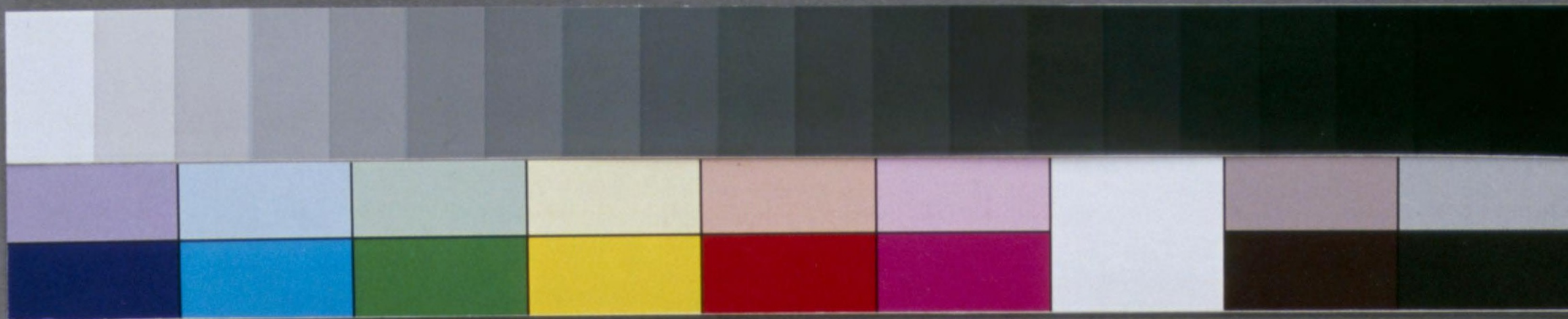
国立国会図書館

源氏物語 15 よもきふ WA7-263 15-030

国立国会図書館







源氏物語 15 よもきふ WA7-263 15-031

国立国会図書館

